

# 温 泉 分 析 書

YZ0450

分析依頼者住所 山形県鶴岡市大字湯田川丙64

氏名 湯田川温泉組合

湯田川温泉(源泉名 湯田川1号源泉)

1 湧出地		山形県鶴岡市大字湯田川湯元47-2							
2 湧出地における調査及び試験成績(平成26年7月28日 10時00分)									
(1)調査及び試験者		株式会社理研分析センター 分析試験部 伊藤嘉生							
(2)泉温		42.2	°C	天候 晴		気温	27.8 °C		
(3)知覚的試験		無色澄明にして無味無臭である							
(4)湧出状況		掘削動力揚湯							
(5)pH値		8.7							
(6)電気伝導率		0.165	S/m(25°C)						
3 試験室における試験成績(平成26年7月28日 ~ 平成26年7月31日)									
(1)試験者		伊藤嘉生 工藤誠							
(2)密度		0.9971	(20°C/4°C)						
(3)蒸発残留物		1070	(mg/kg)	(180°C)					
(4)知覚的試験		無色澄明にして無味無臭である							
(5)pH値		8.6							
4 試料1kg中の成分、分量及び組成									
(1)陽イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(2)陰イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
ナトリウムイオン Na <sup>+</sup>	207.8	9.04	54.75	ふっ化物イオン F <sup>-</sup>	2.3	0.12	0.73		
カリウムイオン K <sup>+</sup>	2.9	0.07	0.42	塩化物イオン Cl <sup>-</sup>	54.4	1.53	9.31		
マグネシウムイオン Mg <sup>2+</sup>	0.1	0.01	0.06	臭化物イオン Br <sup>-</sup>	0.1	0.00	0.00		
カルシウムイオン Ca <sup>2+</sup>	148.0	7.39	44.76	硫酸イオン SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>	694.8	14.47	88.02		
				炭酸水素イオン HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	13.1	0.21	1.28		
				炭酸イオン CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	3.2	0.11	0.67		
計	358.8	16.51	100.00	計	767.9	16.44	100.00		
(3)遊離成分									
①非解離成分		ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)	②溶存ガス成分		ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)		
メタケイ酸 H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub>	40.5	0.52							
メタホウ酸 HBO <sub>2</sub>	1.5	0.03							
				計	0.0	0.00			
				成分総計	:	1169	mg/kg		
(4)その他の微量成分									
				リチウム Li	0.05	mg/kg			
				ストロンチウム Sr	0.087	mg/kg			
				バリウム Ba	0.007	mg/kg			
				アルミニウム Al	0.006	mg/kg			
				銅 Cu	0.003	mg/kg			
				ヒ素 As	0.062	mg/kg			
(5)溶存物質(ガス状のものを除く)		1169	mg/kg						
5 泉質		ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉(低張性アルカリ性高温泉)							
6 禁忌症、適応性		〔温泉分析書別表〕中5に記載する)							

分析書作成年月日

平成26年8月28日

登録分析機関名

株式会社 理研分析センター

登録番号

温泉分析山形第4号



温泉分析書別表（浴用）

平成26年8月28日 分析書番号YZ0450

1	源泉名	湯田川1号源泉
2	源泉所在地	山形県鶴岡市大字湯田川湯元47-2
3	源泉分析依頼者	湯田川温泉組合
4	泉質	ナトリウム・カルシウム-硫酸塩温泉(低張性アルカリ性高温泉)
5	泉質別適応症・禁忌症等	<p>浴用の適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み、筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺に置ける筋肉のこわばり、抹消循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自立神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ病など)、病後回復期、疲労回復、健康増進</p> <p>(泉質別適応症) きりきず、抹消循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症</p> <p>浴用の禁忌症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体(一般的禁忌症) 衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期</p> <p>(泉質別禁忌症) 該当しない</p>
<p>浴用の方法及び注意</p> <p>ア 入浴前の注意</p> <p>(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避ける。酩酊状態での入浴は特に避けること。</p> <p>(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。</p> <p>(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。</p> <p>(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人きりでの入浴は避けることが望ましいこと。</p> <p>(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。</p> <p>(カ) 入浴、特に起床直後の入浴などは脱水症状等にならないよう、入浴前にコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。</p> <p>イ 入浴方法</p> <p>(ア) 入浴温度</p> <p>高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。</p> <p>(イ) 入浴形態</p> <p>心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。</p> <p>(ウ) 入浴回数</p> <p>入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。</p> <p>(エ) 入浴時間</p> <p>入浴温度により異なるが、1回当たり、はじめは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。</p> <p>ウ 入浴中の注意</p> <p>(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。</p> <p>(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。</p> <p>(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を下げてゆっくり出て、横になって回復を待つこと。</p> <p>エ 入浴後の注意</p> <p>(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質では、温泉成分を温水で洗い流した方がよいこと)。</p> <p>(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。</p> <p>オ 湯あたり</p> <p>温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又皮膚炎が現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。</p> <p>カ その他</p> <p>浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルを入れないこと。</p>		

(注) この別表は、温泉法第18条の規定による掲示に直接結びつくものではないが、必要な参考資料となるものである。飲用利用許可を取得していない施設には、原則的に飲用の禁忌症、適応症及び飲用の注意事項は記載しないものとする。